

平成30年度第1回岡山市国民健康保険運営協議会議事録

日 時：平成30年8月20日（月）午後2時 ～ 午後3時

場 所：岡山市保健福祉会館9階機能回復訓練室

出席者：別紙のとおり（委員22名出席）

次 第：別紙のとおり

議 案：（1）平成29年度国民健康保険事業について

報告案件：（1）収納率向上・医療費適正化対策事業の実績について

（2）岡山市国民健康保険第2期データヘルス計画・第3期特定健康診査等実施計画の概要について

（3）AIを活用した健康見える化事業（SDGs未来都市事業）について

（4）平成30年7月豪雨による被災者に対する減免等の支援について

傍聴者：2名

報 道：1社（山陽新聞）入室

【議事結果】

◎議案について説明後、質疑。

◎議案について原案どおり承認。

◎報告案件について報告。

【議案に関する質疑概要】

『（1）平成29年度国民健康保険事業について』

質疑なし

（1）号議案は採決により原案どおり承認。

【報告案件に関する質疑概要】

『（1）収納率向上・医療費適正化対策事業の実績について』

山下委員：資料P17に、保険料収納率向上対策ということでいろんな取り組みをされており、実際数字の方も平成28年度と29年度を比較すると大きく上がっている、非常に頑張っているなどの率直な意見がございます。一方で、資料P11になります、年齢階層別の保険料収納状況を見ると、20～29歳の方の収納率が非常に悪いとい

うことで、若い方世代を対象にした取り組みを何か計画されているのでしょうか。

長田料金課長：若年層の方の収納率が低いということについては、特にターゲットを決めているわけではありませんが、昨年度から給与所得のある方については給与照会等を早めに行い、成果を上げていると思っています。20代の方の所得種別は、給与所得が多い階層ではないかと考えているので、今後も引き続きそういう取組みの中で収納率向上を図っていきたいと思っています。

山下委員：資料P18ですが、医療費適正化対策事業の説明がありましたが、特定健診の関係で協会けんぽと岡山市で以前から連携して取組を行っています。特に特定健診・保健指導について今後とも一緒に協力させていただきたいなということと、がん検診のところももっと対象を拡大する等ご協力をお願いします。

小野課長：ありがとうございます。受診率向上ということで目標を掲げていますので、互いに協力し合って少しでも多くの方に健診を受けていただける機会が作れればと思っていますので、よろしく願いいたします。

林委員：今年から岡山市の方は特定健診をワンコイン健診ということにさせていただいて、英断だったと思います。今まで約2,000円かかっていたものが70歳以下の方もみなさん、ワンコインで受診できるとあって特定健診を断る方がいなくなりました。ですから市の方も是非、500円になったことをアピールしていただきたい。いろいろプレゼント等にお金を使うより500円ワンコイン健診が長く続くように、事務の負担が軽くなるようにしていただきたいと思います。今回のワンコイン健診はいい決断だったと思います。

小野課長：ありがとうございます。今回のワンコイン健診につきましては市民のひろばをはじめ、健診票を同封しているチラシ、薬剤師会との連携により広報に努めさせていただいておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

原田委員：資料P17 4 岡山市寄り添いサポートセンターや弁護士等と連携した生活支援について、以前からあったかもしれませんが、それによって過払金債権調査とあり、9件で18万5千円とありますが、こういった調査なのか内容について教えていただけたらと思います。

長田料金課長：過払金につきましては、消費者金融等で以前、利率が高かった頃があります。そういったものが過払金ということで、請求期限はありますが、請求すれば返還ということがございます。納付相談の時に、そういう消費者金融とかクレジットとか、多重債務の方も中にはいらっしゃると思いますので、事情をお伺いして、過払金の請求、調査をするというお気持ちがあれば専門の弁護士に紹介をして、その過払金が返ってきたら滞納保険料に充当していただくという形で取り組ん

でいます。29年度は18万5千円ですが、この9月に100万円ほど充当する予定です。今、そういう調査の過程で、過払金が発生しているのではないかと思われるものが100万円台が5～6件ありますので、充当するまで時間はかかりますが、保険料の滞納が減少し、収納率の向上、また被保険者の方にとっては債務負担の軽減になり、そういう両面の利点がありますので取り組んでおります。

原田委員：テレビで宣伝しているのがもっと大きな金額をいわれていたのに、9件で18万5千円が少ないように思ってしまったので、今後は100万円単位が出てきて、これが保険料の収納率、滞納してした分が返ってくると、いい着眼点だと思いますし、続けていただけたらと思います。

『(2) 岡山市国民健康保険第2期データヘルス計画・第3期特定健康診査等実施計画の概要について』

山下委員：資料P19③ジェネリック医薬品普及率の新指標がありますが、29年度が64.7%で目標の30年度が60%となっているが、どういった考え方なのでしょうか。

小野課長：これは前期計画を策定した時の数値を表記させていただいております。H29.3月までは実数が入っています。

『(3) AIを活用した健康見える化事業（SDGs未来都市事業）について』

福吉会長：このAI事業については来年行われます保健大臣会合が岡山であります。それを一つの目玉として岡山市もこういった事業に取り組もうということで、当局が提案をして採用されたということがございます。議会としてもしっかり応援したいと思っております。

『(4) 平成30年7月豪雨による被災者に対する減免等の支援について』

時實委員：全般について、国際的な観点から、岡山市内にたくさん住んでいる外国人、特に災害については情報がきても全く分からない、日本語しか出ていないのでというのが多々ありました。災害だけでなく、国保事業の中で、学生さんが国保に入っている人が多々いらっしゃり、また、外国人労働者で健康保険がない方は国保に入っていないと思います。全般的な市の対応をお伺いしたいなと思います。外国人に対する国保事業の対応、どういう風にされているのかということですね。

小野課長：国民健康保険に加入されるときに国保についてのパンフレットにつ

いては多国籍語で書いたものを作っているのですとお渡しはしています。

長田料金課長：資料P 1 6を見ていただけたらと思うのですが、平成28年度実績の窓口勧奨の欄に、外国人用の勧奨チラシということで作成いたしました。英語・中国語・韓国語・ベトナム語・タガログ語ということで5種類作りました。今、平成30年3月現在で外国人世帯の数が約5%ということでそういうことを鑑みまして、日本語では分かりにくいということがございますので、パンフレットを作成して窓口で配布しております。大学などにも配布して、口座振替のことや、国民健康保険の制度のことが、簡単に分かるような形でチラシを作成して配布しています。

時 實 委 員：ありがとうございます。できるだけきめ細やかな対応をお願いします。

林 委 員：被災者に対する減免についてはもっともだと思うのですが、対象世帯数、支出される金額はいくらくらいを予定されているのですか。

小 野 課 長：具体的にり災証明書の受付が終わっていないので、り災証明が今現在で7, 000少しと伺っていますので、金額については、まだこれからとなります。

野 村 次 長：全体的には正直申し上げるとどれだけり災証明書を出していただけるかということに尽きると思いますが、見込みとしては今のところ費用的には約2億程度。国基準がございまして、国が、床上で50%、半壊で50%、全壊が100%の減免までみますよという話をいただいています。この部分までは国がお金を出して、減免した関係で費用が必要になればみますというところがあります。国が出す部分が約1億くらいだろうと伺っております。市の方で改めて負担する部分、市が独自に床上浸水で100%までみますよ、半壊でも100%みますよというところで上乗せして、今回措置をさせていただきましたので、その部分の費用で約1億くらいといったところで積算しておりますが、いずれにしても今だいたい被害世帯が床上・床下で7, 000世帯超、床上で3, 000強という数字がありますので、仮に、そういった方々がり災証明をすべていただければそれくらい、しかも法定軽減世帯と言われる2割、5割、7割といったところで保険料の負担を市の方で軽減させていただいている部分についてですね、その世帯については手厚いものをさせていただくといった形でございます。具体的な世帯数についてはまだこれからとなります。

以上